

## 平成14年度第2回幹事会報告

平成14年7月25日  
於：住友病院

### [出席者]

事務局長（小田中徹也）、幹事（山室真知子、山崎捷子、松本純子、林 伴子、森川治美、神田智香子、増田 徹、北川佳代子）

### [報告・協議事項]

事務局（総務・会計）：(1) 会員異動：新会員/鈴鹿回生総合病院（7/3）、その他、総務より報告。(2) 日本医学図書館協会第73回総会（5/23-24 松山）小田中出席。国立医学図書館（仮称）設立への運動を開始（委員会設置）。資格認定の事業化に取組んでいる。日本薬学図書館協議会との「連合」を図っていること。また、会費が会員の種別を問わず（個人会員を除く）1万円値上げされた。ただし、病院会員は5,000円値上げ。会長は清水英裕氏（東京慈恵会医科大学教授）に交替した。(3) 近畿地区医学図書館協議会例会（6/14 大阪医大）小田中出席。(4) 日本病院会よりの全国図書研究会（10/11-12 東京）の後援名義借用依頼（7/15）を了承。同研究会の会員向け案内状については、会誌に同封して8月末に配布することにした。(5) JMLA 関東地区加盟館夏季業務スケジュール案内（7/17）評議館・聖路加国際病院より。(6) 会計中間報告。

研修部：第15回勉強会（6/21 大阪市立大学医学部）「医中誌Web Ver.2説明会」の参加者は23名。また、第16回勉強会（7/27 京都南病院）「病院図書館業務の基礎」、第17回勉強会（8/14 住友病院看護専門学校）「やり直しのExcel」の予定が報告された。第99回研修会（9/6-7 キャンパスプラザ京都）「サマーセミナー」の企画について、第一日目は、「医学文献」の現況と課題をテーマにし、山崎茂明氏（愛知淑徳大学教授）を講師に招く他、著作権や文献相互貸借の問題点を扱うことにした。また、いくつかのテーマごとの小グループによるワークショップを開くことにした。二日目は「EBM とライブラリアン」をテーマに、中山健夫氏（京都大学助教授）を始め、3名の講師によるレクチャーシリーズを企画した。

会誌編集部：22巻2号の発行経過、22巻3号の編集経過、22巻4号の編集企画が報告された。また、第19回医学情報サービス研究大会（静岡）での会誌と「わかる医学用語」の売り上げ報告があった。

統計調査部：年次統計調査のうち、「管理機能」と「サービス機能」のそれぞれについて、いくつかの項目を改訂することにした。

目録編集部：総合目録改訂版編集にあたっての、業務委託先と委託内容、作業スケジュール、配布形態等を協議した。そのうち、配布形態については当面、検索プログラムとデータを含むCD-ROMを採用することにした。委託先と委託内容についてはまず、従来の(株)サンメディアと交渉することにした。また委託予算額も設定した。

### [協議・決定事項]

(1) 著作権に関する日本病院会図書研究会の回答について

6月21日の実行委員会会議の結果について、渡辺委員長からの回答を報告し、対応を協議した。その結果、当会会長の意向を確認した上で、場合によっては著作権関連について日本病院会（会長）へ協力を要望することにした。

(2) 病図協案内パンフレットについて

病図協ホームページの内容を調整し、各部活動紹介や相互貸借の標準化を盛り込んだ内容のパンフレットを作成することを再確認した。10月の第3回幹事会に素案を提出する予定とした。

(3) 病図協所蔵資料の移転について

会員（星ヶ丘厚生年金病院）に保管を委託している協議会の所蔵資料（単行本、発行会誌、目録類など）を、今年度中に外部へ委託保管することにした。そのため、次回の第3回幹事会を星ヶ丘厚生年金病院で開き、会議の前に幹事で資料を整理し、移転する保管資料を見極める。その上で、予算の範囲内で委託内容や条件を定めることにした。

(4) 第3回幹事会

平成14年10月17日、星ヶ丘厚生年金病院で開催予定。